

インドネシア陸上油田における CO2 圧入 (CCUS) の実施について

PT Pertamina (Persero)

PT Pertamina EP

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構

令和 4 年 8 月 31 日

PT Pertamina (Persero) (以下、「プルタミナ」)、PT Pertamina EP(以下、「PEP」)と独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下、「JOGMEC」)は、インドネシア・西ジャワ州の陸上ジャティバラン油田における CO2 圧入に関する共同研究を開始したことをお知らせします。

本共同研究により、プルタミナ、PEP 及び JOGMEC は、ジャティバラン油田における CO2-EOR(注 1) 及び CCS(注 2)実装の初期段階として、令和 4 年以内に CO2 圧入を実施することを計画しています。本事業は減退油ガス田における CO2-EOR 及び CO2 貯留効果を検証することを目的としています。

本事業は、プルタミナ及び PEP がインドネシア国内の減退油ガス田に対して実施する初の CO2 圧入であり、インドネシアにとって CCUS(注 3)の 1 つである CO2-EOR 技術の導入による原油増産と CO2 排出量削減に向けた重要なステップとなります。

本共同研究契約の署名式は、令和 4 年 8 月 30 日にインドネシアのバリ島で G20 Energy Transition Working Group のサイドイベントとして、インドネシアのアリフィン・タスリフ エネルギー・鉱物資源大臣とプルタミナのニク・ウドヤワティ代表取締役社長の同席のもと執り行われました。

プルタミナ、PEP 及び JOGMEC は、ネットゼロカーボン社会の実現に向けたエネルギー・トランジションに積極的に取り組むとともに、長期的なエネルギーの開発・安定供給への責任を果たしてまいります。



インドネシア・バリでの共同研究契約署名式 (左から)ニク代表取締役社長(プルタミナ)、アリフィン エネルギー・鉱物資源大臣、オキ上級副社長(Pertamina Research & Technology Innovation)、アンドリ ゼネラルマネージャー(PEP)、山本石油天然ガス事業本部副本部長(JOGMEC)

(注1) CO₂ を利用した原油の増進回収 (Enhanced Oil Recovery)

(注2) 二酸化炭素回収・貯留 (Carbon dioxide Capture and Storage)

(注3) 二酸化炭素回収・有効利用・貯留 (Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage)